

(5) 蕨岡小学校

学 校 長 清家利華子
校内研代表者 山崎 充子

1. 研究主題 「自分の思いを表現できる児童の育成」 －国語科の複式授業研究－

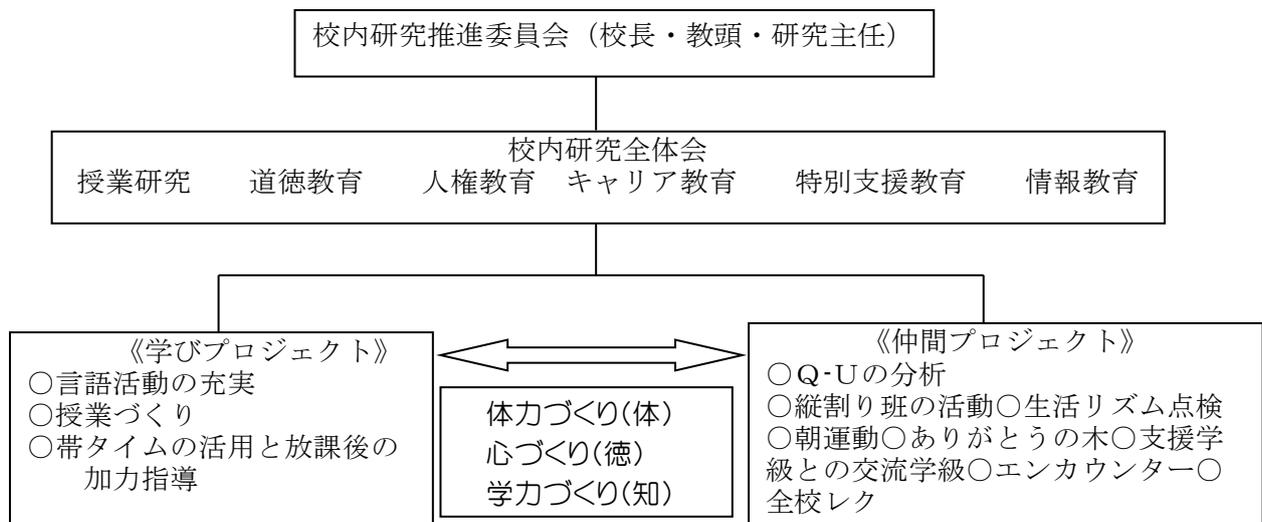
2. 主題設定の理由

本校は一昨年の CRT テストの国語科において、－14.1P と全国平均より大きく下回り、特に「書くこと」において弱さが見られた。児童が自分の思いを表現し、主体的に学ぶ力を育むためには、国語科において「話す・聞く・書く」力を高めることが重要であると考え、国語科の研究を行っている。昨年度の実践の結果を検証するために標準学力調査と高知県版学力調査の数値を比較したところ、総合で+3.1P、「書くこと」においては+5.2P となっており、成果が見られた。しかし、自分の思いを表現し、主体的に学ぶために必要である「臆さず話せる」力については課題が残っている。

このような実態から、今年度も国語科を中心とした授業研究に取り組む。「自分の思いを表現できる児童の育成～国語科の複式授業研究～」という研究テーマを設定し、同単元（同領域）異教材での学習指導の方法を研究していく。2つの学年に共通する目標を設定し、学習活動には共通する部分を計画する。また、発表や話し合いの機会を多く設定し、自分の考えを相手に伝える活動を取り入れた授業を仕組む。複式で学び合える授業構成、指導方法の工夫改善に努めることは、学年に応じた確かな学力の定着や表現力の向上につながると考える。さらに、基礎学力の定着を図るために個に応じた対応も設定していき、ICT を効果的に活用した授業にも引き続き挑戦していく。そして、コミュニケーションや集団での関わりを大切にしていくために、道徳や人権、キャリアなどの視点からも取り組んでいきたい。そのような取組から自分の意見を言える力が身につく、他の意見を聞きそれを基に自分の考えを確かにしていく児童の姿をめざしたい。

また、主体的・対話的で深い学びにつなげるための素地として、学びプロジェクト（発表朝会、全校集会、読書活動の充実、新聞への投稿など）や仲間プロジェクト（Q-U、エンカウンター、全校遊び、縦割り班活動など）も継続していく。

3. 研究の進め方と方法



4. 具体的な取り組み

【授業での共通認識】

- ・本時の目標が達成できている授業
- ・児童が関わり合うことにより思考が深まる授業
- ・1時間の中に「話し合う活動」「書く活動」がある授業
- ・問いから振り返りまでが1時間完結になっている授業

【めざす授業の共有化】

- ・全学級研究授業を行う。教科は国語を主とする。
- ・校内研究全体会で指導案検討を行う。
- ・研究授業および事後研究に指導主事を招聘する。
- ・授業参観の視点を設定しておき、それを基に協議を行う。

(1) 授業を支えるための取り組み ―学びプロジェクト―

①ことばあそびと国語辞典の活用

年間3回の中で、言語能力を向上させるためのことばあそび（辞書引き）は、語彙を豊富にしていく取組みにつなげていく。国語辞典は全員に持たせ、取組む。振り返りを行う。

②国語タイム

1学期 条件付き作文を書く。（火曜日：ミニ作文 水曜日：要約作文）

2・3学期 読書（読書量を増やすための時間を確保）

③掲示板の活用

国語タイムで児童が書いた作文の掲示をする。（1学期）

高知新聞「読もっか」に取組む時間を設定し、作文、俳句、カットを投稿する。

掲載された作品は「読もっかコーナー」に掲示し、年度末には児童へプレゼントする。

④必読図書の読破（図書委員会の取組）

20冊の必読図書を読破できるようにする。

教科書に紹介されている並行読書から選ぶ。

※年間読書目標冊数の設定

3～6年（じっくりコース60冊、どんどんコース100冊）コースを選択する。

1・2年（100冊）

(2) 授業を支えるための取り組み ―仲間づくりプロジェクト―

①体力・運動能力の向上

- ・朝マラソン（毎日）※7月・9月は熱中症予防のため実施なし
- ・朝運動（一輪車、なわとび等）

②こころの居場所となる温かな学校づくり

- ・縦割り班の活動
- ・全校レク
- ・班長による読み聞かせ（第3木曜日）
- ・なわとび大会（2月の合同体育）
※12月から学級で練習開始
- ・SCによるエンカウンター（6月、10月、2月）（予定）
- ・学校生活アンケートの分析（6月、12月）
- ・QU（6月、11月）
- ・ミニQU（5月、10月、1月）

③基本的な生活習慣の構築

- ・生活リズム点検（毎学期）
- ・分析と課題の共有
- ・栄養教諭による指導（年間3回）

④保小連携

- ・保育所へ読み聞かせ（学期1回※3・4年と5・6年）
- ・合同生活調べ（6月、10月、2月の生活リズムの日程を合わせて実施）
- ・保小連絡会（6月、12月、8月、3月の年4回）

5. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・授業研究を柱に日々の授業改善を行うことができた。
- ・学習のための手段という認識で、ICTの効果的な活用方法について研究を深めることができた。（様々な学年のスキルに応じた使い方、どの場面で活用することが効果的となるのか、書き込みのさせ方、他者参照のさせ方、振り返りながら学習を見通す手立て）
- ・朝の学習が、年度途中で朝読書に変更となったが、子どもたちの実態に合わせて軌道修正できるよう、臨機応変に柔軟な取り組みを継続させていく。
- ・ロイロノートの研修で、使うことの良さを実感できて、授業での活用に活かした。
- ・授業研究の実践とその協議を通して、特にロイロノートの効果的な活用について具体的に理解することができた。
- ・複式学級の授業について、基本的な部分を見て学ぶことができた。
- ・先生方のロイロノートの使い方を共有していただいたことで効果的な使い方を知り、実際に使ってみることで授業の幅を広げることができた。

〈課題〉

- ・課題を見つける力を養い、解決に向けた方法を考え実行し、みんなで決めた取り組みを継続し、時には軌道修正しながら、子どもたちの表現力を伸ばしていくことが今後も大事である。
- ・授業の中で、子どもたちに任せきる場面、また子どもたちだけで学びを進めていくための具体的な手立てについて、さらに校内研の主題として協議を深めていく。
- ・授業の中で手を挙げて発言する機会があまりとることができなかつたこともあり、自分の意見や感想等を手を挙げて進んでいえる児童が少ないので、何か取り組みを考えたい。
- ・複式学級の授業の中での異学年交流（相互学習）の機会が少ないので方法や実践例を学びたい。
- ・朝運動の取り組みについて、朝マラソンでどれだけがんばったかが評価できるように、全校で統一して朝マラソンカードを使ったほうがよかった。